

SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 11 月 29 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

第 40 回

「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 25 年 10 月)

～現状判断、先行き判断ともに 4 期連続で改善判断～

- 平成 25 年 10 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 50.5 と、景気横ばいを示す「50」を 4 期続けて上回る「改善」判断となったものの、前回 7 月調査（52.4）から Δ 1.9 ポイント低下した。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」も 59.2 と、前回 7 月調査（53.7）比で+5.5 ポイント上昇しており、こちらも 4 期連続の「改善」判断となった。ボーナス支給額増加や年末商戦の盛り上がり期待に加え、消費税増税前の駆け込み需要が見込まれることから、小売・飲食関連を中心に個人消費の活発化が予想される。

担当：植村泰大

消費税増税前の駆け込み見据え、先行きの景気は上昇

平成25年10月調査では、**現状判断指数は50.5**と、4四半期連続で横ばいを示す「50」を上回ったものの、**前回調査（52.4）から△1.9ポイント低下**し、足元の回復テンポは減速している（図表1、2）。一方、2～3カ月先の景況感を示す**先行き判断指数は59.2**と、**前回調査（53.7）から+5.5ポイント上昇**し、年末に向けて景気回復への期待感が膨らんでいる（図表1、4）。

現状判断指数が前回より低下した主な要因としては、天候不順による来客数の減少や原材料価格の高止まりなどの影響を受けて、家計消費関連が49.3と悪化に転じたことが挙げられる。一方、先行き判断指数が上昇した要因としては、ボーナスや年末年始といった季節要因に加え、消費税増税前の駆け込み需要が本格化することから、家計消費関連において前回比+7.0ポイント上昇したことが挙げられる。

調査結果の要旨

現状判断（D.I.=50.5） 家計消費関連で悪化に転じ、足元の回復テンポは減速

- ・家計消費関連（D.I.=49.3） 飲食関連の落ち込みが響き、1年ぶりに悪化判断へ
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=50.0） 景況感の改善を実感できず、横ばい判断
- ・雇用関連（D.I.=60.0） 高水準で改善判断が継続、回復基調が続く

現状判断理由 悪化の主な要因は、来客数や販売量の動き

- ・家計消費関連…悪化理由は「来客数」の減少および「販売量」の低迷
- ・事業所向けビジネス関連…改善理由は「受注量や販売量の動き」
- ・雇用関連…欠員補充などにより「求人の動き」が改善

先行き判断（D.I.=59.2） 季節要因と駆け込み需要の本格化で高まる改善期待

- ・家計消費関連（D.I.=61.0） 小売・飲食関連を中心に、判断指数は高水準で推移
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=54.2） 季節要因や駆け込み需要を背景に改善期待
- ・雇用関連（D.I.=55.0） 改善見通し続くも、先行きにはやや不透明感あり